

都市再生整備計画

かもしが いちちく だいに きだいい かいへんこう
加茂市街地区第二期(第3回変更)

にいがた かも
新潟県 加茂市

令和7年2月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	かもし 加茂市	地区名	かもしがいちちくだいにき 加茂市街地地区第二期	面積	380 ha
計画期間	令和 1 年度 ~ 令和 6 年度	交付期間	令和 1 年度 ~ 令和 6 年度				

目標
 北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりを目指す。
 目標1:小京都らしい風情の創出
 目標2:山-市街地-役所周辺を結ぶ回遊性の創出
 目標3:イベント等の受け入れの収容量の確保
 目標4:災害に強いまちづくり

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 ・当市は三方を山に囲まれ、加茂川の清流沿いに市街地が形成され、その自然・風土・街の風情から「北越の小京都」と呼ばれている。
 ・市街地には、JR信越本線加茂駅を表玄関としたメイン通り約1,500mに8商店街が連なっており盛んに商業活動が行われている。平成6年には仲町、上町、五番町のメイン通り道路拡張事業、平成23年度には7商店街目の新町商店街の道路拡幅事業と商店街近代化事業を開始した。商店街の魅力づくりを進めるとともに、地区計画区域の指定による郊外型大型店の出店を抑制し、手厚く商店街を保護してきた。
 ・市街地周辺における都市再生整備事業(まちづくり交付金事業)については、平成17年度から平成21年度に公共施設整備を積極的に配置し既成市街地を再生した。平成20年度から平成24年度に防災に強い都市基盤整備事業として、避難道路、排水路、小公園・広場などの避難場所を整備し防災に強い都市基盤施設を整備、平成26年度から平成30年度に「防災に強い安全で安心して暮らせ魅力ある地域づくり」と「北越の小京都の風情をもった魅力あるまちづくり」を行ってきた。
 ・その結果、市街地における災害リスクの多くは解消され、「北越の小京都」にふさわしい風情ある街並みが再生・創出されている。また、地元主体の景観審査会が組織化されるなど、景観を保全・継承する体制も構築された。
 ・平成26年度からは、商工会議所が主体となり、市街地に隣接する加茂古道を歩くハイキングイベントを実施しており、当初160名だった参加者は平成29年度では700名まで増加している。また加茂市健康課が主体となり健康ウォークを実施、こちらも参加者が増加している。いずれのイベントも商店街もコースに組み込まれていることから、これを機に市内外から中心市街地への来訪者が増加することが見込まれる。
 ・令和2年度からは、加茂市健康増進プロジェクトとして、JR加茂駅前の商業施設にある仮称加茂地域交流センターを中継したウォーキング事業を計画しており、公共交通機関の利用者や商店街のアーケードを利用した歩行者など相乗的な利用者の増加が見込まれる。
 ・加茂土産物センター・インフォメーションセンターのリニューアルや、加茂駅のリニューアル構想など、今後、魅力ある回遊拠点が整備されることから、これらと本事業の連携により、居心地が良く歩きたくなるまちとして更なる効果が期待できる。

課題
 今後は、「北越の小京都」である加茂市街地をより多くの人に楽しんでもらえるよう、さらなる魅力づくりと、大勢の来訪者を受け入れるための仕組み、収容力の強化が求められる。
 市街地地区内には加茂川、加茂山などの自然や歴史的建造物、個性ある商店街などの歩きたくなる資源は豊富であるが、休憩場所などの回遊のための場が少ないことから、これらの資源が十分に活かされていない。
 また、未だ解消されていない避難困難地域の安全性を確保するため、避難場所の確保が求められる。
 ①加茂古道や市街地の日常的な来訪、利用の増加
 ②市街地地区と市役所周辺との連携、居心地が良く歩きたくなるための回遊拠点の創出
 ③大勢の来訪者を受け入れる収容力の強化
 ④避難困難地域における安全性の確保

将来ビジョン(中長期)
【将来都市像】
 第2次加茂市総合計画で掲げる当市の将来像は、「1. 自然に恵まれ潤いとゆとりのあるまち」「2. 各分野の産業が一体となって発展するまち」「3. 教育環境が充実し文化活動が盛んなまち」「4. 健康で温かい心のかよいあまらまち」「5. 安全で快適な暮らしよいまち」である。また、同計画における当地区内の中心市街地の整備として「市民生活の快適性・安全性の確保」「地域の特性を生かした潤いある街並みの確保」「市外からの来訪者にとっても魅力のあるまちづくり」が挙げられる。総合計画は令和3年に改定を予定している。
【都市計画区域マスタープラン(新潟県)の基本方針】
 市街地整備の方針として、「地震発生時に建築物の倒壊や延焼など多大な被害の発生が想定されることから、建築物の耐震化及び不燃化の促進、オープンスペースの確保など、災害に強い都市づくりを推進する。」
 都市景観については、「郷土の代表的な景観資源の保全」が謳われており、水と緑の景観を構成する「加茂川」や風情を感じさせる郷土景観「青海神社」、「長瀬神社」等の保全及び創出を図る。
 既成市街地の道路、公園、河川などの都市基盤整備により地域住民が防災に強い安全で安心して暮らせる魅力ある地域づくりと北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりにより大勢の人々が往来するまちづくりの実現を目指す。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
新町木造雁木 歩行者数	人/日	新町木造雁木における平日12時間(8:00~20:00)の断面歩行者数	「目標1:小京都らしい風情の創出」、「目標2:山-市街地-役所周辺を結ぶ回遊性の創出」に関連し、木造雁木により魅力を創出した商店街通りの利用者数を把握する。	348	平成30年	450	令和6年
新町多目的広場イベント参加者数	人/回	1年間で、新町多目的広場において開催するイベントの1回当たり平均参加者数	「目標1:小京都らしい風情の創出」、「目標2:山-市街地-役所周辺を結ぶ回遊性の創出」、「目標3:イベント等の受け入れの収容量の確保」に関連し、多目的広場で開催するイベントの1回当たりの平均参加者数を把握する。	0	平成30年	250	令和6年
避難困難者数	人	区域内において、一時避難場所又は周辺構造物の倒壊、延焼、浸水等の恐れのない田園・山林等まで250m以上離れた地域に住む人の人数	「目標4:災害に強いまちづくり」に関連し、区域内における避難困難者数を把握する。	390	平成27年	0	令和6年
健康ウォーク参加者数	人/回	駅前商店街や若宮公園、下条ダムをコースとしたウォークイベントにおける参加者数	「目標1:小京都らしい風情の創出」、「目標2:山-市街地-役所周辺を結ぶ回遊性の創出」、「目標3:イベント等の受け入れの収容量の確保」に関連し、まちなかや山に魅力を感じ商店街を歩くイベントに参加する人の人数を把握する。	302	令和2年	500	令和6年

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりの実現) 街路事業に併せて行われる商店街の和風建築に合せた木造雁木整備及び歴史的価値のある建物の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新町多目的広場整備事業(基幹事業) ・新町木造雁木整備事業(基幹事業) ・子ども伝統文化体験事業(関連事業)
<p>整備方針2(山-市街地-役所周辺を結ぶ回遊性の創出) 各エリアにおける回遊拠点の整備より、JR信越線、加茂川によって分断された各エリアの回遊性を高める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新町多目的広場整備事業(基幹事業) ・新町木造雁木整備事業(基幹事業) ・神明町多目的広場整備事業(提案事業) ・仮称加茂市地域交流センター整備事業(提案事業) ・加茂市都市計画マスタープラン策定事業(提案事業)
<p>整備方針3(収容力の確保) 東地区に大勢の来訪者を受け入れるための収容量を確保する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神明町多目的広場整備事業(提案事業) ・新町多目的広場整備事業(基幹事業)
<p>整備方針4(災害に強いまちづくり) 市街地におけるオープンスペースを確保し、災害時の緊急避難場所などに活用する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新町多目的広場整備事業(基幹事業) ・神明町多目的広場整備事業(提案事業)
<p>その他</p>	

加茂市街地地区第二期(新潟県加茂市)	面積 380 ha	区域 加茂、上条、西加茂、下条
--------------------	-----------	-----------------

